

## 法務省 部落差別の解消の推進に関する法律第6条に基づく調査(一般国民に対する意識調査)・令和3年度人権に関する県民意識調査(案) 設問項目比較表

法務省 部落差別の解消の推進に関する法律第6条に基づく調査(一般国民に対する意識調査)			令和3年度 人権に関する県民意識調査(案)での類似・関連等設問		
設問項目(要旨)		回答選択肢	設問番号	類似・関連等の状況 (○…法務省調査と同一の設問 △…法務省調査と同一ではないが、 類似または関連する設問)	類似・関連等の内容
問1	これまで学校、職場及び地域で、人権問題についての授業、講義等を受けたことがあるか	1. 受けたことがある 2. 受けたことはあるが、どこで受けたか覚えていない 3. 受けたかどうか覚えていない 4. 受けたことはない	問26	△	過去3年ぐらいの間に人権に関する研修会等ほどの程度参加したかを問う設問であり、同一の内容ではないが、一定の関連性がある
問1-1	【問1で「1. 受けたことがある」の場合】 これまで受けた学校、職場及び地域での人権問題についての授業、講義等で該当するものはどれか(いくつでも)	1. 小学校、中学校、高校、大学等の教育機関で受けた 2. 市民対象の講演会や講座で受けた 3. 職場の研修で受けた 4. 法務省の人権擁護機関(法務局、人権擁護委員)による人権教室で受けた 5. その他の場所で受けた	—	—	—
問2	これまで自分の人権が侵害されたと思ったことがあるか	1. 思ったことはない 2. よく覚えていない 3. 答えたくない 4. 思ったことがある	問4(1)	△	ここ5年以内に自分が人権侵害を受けた経験の有無を問う設問であり、同一の内容ではないが、類似性がある
問2-1	【問2で「4. 思ったことがある」の場合】 それはどのような場合か(いくつでも)	1. あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口 2. 名誉・信用のき損、侮辱 3. プライバシーの侵害 4. 暴力、脅迫、強要 5. 差別的取扱 6. 地域社会での嫌がらせ 7. 学校でのいじめ 8. セクシュアル・ハラスメント 9. パワー・ハラスメント 10. 職場での嫌がらせ 11. ドメスティック・バイオレンス(配偶者やパートナーからの暴力) 12. 児童虐待 13. その他	問4(2)、(3)	△	人権侵害を受けた経験がある場合、その場面および内容を問う設問であり、同一の内容ではないが、類似性がある
問3	人権問題に関する相談窓口として、どのようなものを知っているか(いくつでも)	1. 法務局 2. 人権擁護委員 3. 警察 4. 都道府県の相談窓口 5. 市(区)町村の相談窓口 6. 弁護士会の相談窓口 7. 法テラス 8. 民間運動団体 9. 民間の相談窓口 10. その他 11. 知らない	問4(4)、問5(2)	△	自分が人権侵害を受けた経験または他人が人権侵害を受けた場面に居合わせた経験がある場合の対応を問う設問であり、選択肢として類似する内容を設けている
問4	日本における人権課題について、関心があるものはどれか(いくつでも)	1. 女性 2. 子ども 3. 高齢者 4. 障害者 5. 部落差別(同和問題) 6. アイヌの人々 7. 外国人 8. HIV感染者等 9. ハンセン病患者・回復者等 10. 刑を終えて出所した人 11. 犯罪被害者等 12. インターネット上の人権侵害 13. 北朝鮮当局によって拉致された被害者等 14. ホームレス 15. 性的指向・性自認(LGBT) 16. 人身取引(性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引) 17. 東日本大震災に伴う人権問題 18. その他 19. 関心がない	—	—	—
問5	「部落差別の解消の推進に関する法律」を知っているか	1. 知っている 2. 法律の名前は聞いたことはあるが、内容までは知らない 3. 知らない	問3	○	「部落差別の解消の推進に関する法律」を含めたいわゆる人権三法および関係する県条例の認知度を問う設問を新設したものであり、同一の内容が含まれている
問6	「部落差別」又は「同和問題」という言葉を聞いたことがあるか	1. 聞いたことがある 2. いずれも聞いたことがない	—	—	—
問6-1	【問6で「1. 聞いたことがある」の場合】 はじめて部落差別又は同和問題の言葉を聞いた時期	1. 6歳未満 2. 6歳以上12歳未満 3. 12歳以上15歳未満 4. 15歳以上18歳未満 5. 18歳以上 6. 聞いたことはあるが、聞いた時期は覚えていない	—	—	—
問6-2	【問6で「1. 聞いたことがある」の場合】 部落差別又は同和問題といわれているものがどういう内容のものか知っているか	1. 知っている 2. 何となく知っている 3. 知らない	—	—	—
問7	部落差別が不当な差別であるのを知っているか	1. 知っている 2. 部落差別は不当な差別ではない 3. 知らない	—	—	—
問8	何をきっかけに部落差別(同和問題)について知ったか(いくつでも)	1. 家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた 2. 親戚の人から聞いた 3. 近所の人から聞いた 4. 職場の人から聞いた 5. 友だちから聞いた 6. 学校の授業で教わった 7. テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った 8. 部落差別に関する集会や研修会で知った 9. 都道府県や市区町村の広報誌や冊子等で知った 10. 法務省や法務局の啓発資料等で知った 11. 部落差別の問題は知っているが、きっかけは覚えていない 12. その他	問16	△	同和問題について初めて知ったきっかけを問う設問であり、同一の内容ではないが、類似性がある
問9	過去に実社会やインターネット上で、部落差別による被害を受けたり、反対に部落差別に当たる言動をしたりしたことがあるか。あるいは、親族、知人が過去に同様の被害を受けたり、反対に部落差別に当たる言動をしたりしているのを見聞きしたことがあるか	1. ある 2. ない	—	—	—
問9-1	【問9で「1. ある」の場合】 どのような場面、事例であったのか(いくつでも)	1. 結婚や交際 2. 就職や職場 3. 戸籍 4. 落書き、貼り紙 5. 悪口 6. インターネット上の書き込み 7. 旧同和地区名の公表 8. その他 9. 覚えていない	—	—	—

法務省 部落差別の解消の推進に関する法律第6条に基づく調査(一般国民に対する意識調査)		令和3年度 人権に関する県民意識調査(案)での類似・関連等設問			
設問項目(要旨)		回答選択肢	設問番号	類似・関連等の状況 (○…法務省調査と同一の設問 △…法務省調査と同一ではないが、 類似または関連する設問)	類似・関連等の内容
問10	部落差別の問題に関して、インターネット上で人権侵害事例を見たことがあるか	1. インターネットを利用したことがない 2. インターネットを利用しているが、見たことがない 3. 見たことがある	問18(1)	○	一部の文言を修正の上、同一の設問を新設したもの(設問文中「部落差別の問題に関して」→「同和問題に関して」)
問10-1	【問10で「3. 見たことがある」の場合】 どのような内容のものを見たか(いくつでも)	1. 個人を名指した悪口 2. 個人を名指ししない、集団に対する悪口 3. 旧同和地区名の公表 4. 差別の呼びかけ 5. その他	問18(2)	○	一部の文言を修正の上、同一の設問を新設したもの(選択肢3中「旧同和地区」→「同和地区」)
問11	現在でも部落差別があると思うか	1. 部落差別はいまだにある 2. 部落差別はもはや存在しない	問19(1)	○	同一の設問を新設したもの
問11-1	【問11で「1. 部落差別はいまだにある」の場合】 現在でも部落差別が残っているとすれば、その原因はどこにあると思うか(いくつでも)	1. 部落差別に関する正しい知識を持っていない人がいるから 2. 落書きやインターネット上などで差別を助長する人がいるから 3. これまでの教育や啓発が十分でなかったから 4. 昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから 5. 地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから 6. 旧同和地区が行政から優遇されていたように感じるから 7. 道路や水道などのインフラ整備が十分でない地域がまだ残っているから 8. 「同和は怖い」という意識がまだ残っているから 9. 教育や啓発をやり過ぎたから 10. その他 11. 特にない 12. わからない	問19(2)	○	一部の文言を修正の上、同一の設問を新設したもの(選択肢6中「旧同和地区」→「同和地区」)
問12	近所の人が旧同和地区の出身者であるか否か気になるか	1. 気になる 2. 気にならない 3. わからない	問20	○	一部の文言を修正の上、同一の設問を新設したもの(設問文中「旧同和地区」→「被差別部落」)
問13	交際相手や結婚相手が旧同和地区の出身者であるか否か気になるか	1. 気になる 2. 気にならない 3. わからない			
問14	求人に対する応募者や職場の同僚が旧同和地区の出身者であるか否か気になるか	1. 気になる 2. 気にならない 3. わからない			
問15	これまでに、部落差別の問題についての講演会や研修会に参加したり、新聞・雑誌・インターネット等の部落差別解消のための啓発に関連する記事を読んだりしたことがあるか(1)から(5)について、それぞれ回答) (1)講演会や研修会、地域懇談会、人権フェスティバルなどのイベント (2)市町村等の広報誌、パンフレット、掲示物(ポスター、看板等) (3)新聞、書籍、雑誌 (4)インターネット (5)テレビ、ラジオ、映画、ビデオ	1. 3回以上参加した 2. 1~2回参加した 3. 参加したことはない  ※選択肢の表現は(1)~(5)の各媒体に応じて異なる (「3種類以上読んだり、見たりした」・「1~2回見た」等)	問25、26	△	県や市町が行う人権啓発活動への接触状況および人権に関する講演会や研修会等への参加状況を問う設問であり、同一の内容ではないが、類似性がある
問16	部落差別に関する問題を解消するために効果的と思われることは何か(いくつでも)	1. 教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する 2. 被害者の救済を図る 3. マスメディア(テレビや新聞など)がもっと問題を取り上げる 4. 職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境を作っていく 5. 自然になくなるのを待つ 6. どのようにしても差別はなくなる 7. 部落差別に関する差別意識を解消する必要はない 8. 効果的なものはない 9. その他 10. わからない	問21	△	同和問題を解決するための取組や対応に関して、複数の考え方を例示してそれぞれに対してどのように感じるかを問う設問であり、同一の内容ではないが、類似性がある (なお、今回の調査案では、法務省調査の回答の選択肢1~4を参考として、一部の選択肢の追加を行っている)
問17	部落差別に関する問題を解消するために、学校教育や啓発(講演会、研修会、広報等)を今後どのようにすればよいと思うか	1. 積極的に行うべきである 2. やるべきであるが、方法や内容を変えるべきである 3. 今のままで十分である 4. あまりやらない方がよい 5. やるべきでない 6. 部落差別に関する問題を解消する必要はない 7. その他 8. わからない	—	—	—